

# LA VIDA NUEVA

ラ・ビダ・ヌエバ=新しい生き方



第 162 号 (2024 年 1 月)



- ニカラグア映画「マリア 怒りの娘」公開
- 「世界はやさしい世界でできている」 中南米放浪記から
- 会からのお知らせ・編集追記

会報発行／ニカラグアの会 since 1985

代表／小池康弘 事務局長／伊藤幸慶 編集・デザイン／原田篤実

事務局／〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1-44-17 嶋田ビル 302 号

Tel. & Fax. 052-581-3772

三菱 UFJ 銀行：黒川支店 (普) 3513637 ニカラグアの会

郵便振替：ニカラグアの会 00830-3-63295

e-mail : nicaragu@aichinet.ne.jp HP: nicaragua-nagoya.net (変更しました)

Facebook: www.facebook.com/nicaraguajapan

ニカラグアの会は、現地の地域開発を推進する団体を支援する NGO です。  
現地支援団体を通じて子供たちの教育や女性の自立をサポートしています。

## 今春、待望のニカラグア映画、「マリア 怒りの娘」公開！

舞台は美しい風景が広がるマナグア湖のほとり。  
母親と暮らす 11 歳の少女マリアはゴミ収集で生計を立てていた。

### Introducción



トロント国際映画祭ディスカバリー部門選出

これまで製作された長編映画はわずか数本。ニカラグアから誕生した鮮烈なデビュー作

ニカラグアは独裁政権や内戦が長らく続いた影響で経済は停滞し、いまなお貧困が大きな課題となっている。国内で製作された長編映画はこれまでわずか数本で、『マリア 怒りの娘』はニカラグア出身の女性監督による初めての作品である。

ローラ・バウマイスター監督は、1983 年ニカラグアに生まれ、メキシコの国立映画学校で映画制作を学んだ。2014 年に制作した短編『Isabel Im Winter』が、2014 年カンヌ国際映画祭批評家週間で上映された実績を持つ。初の長編作品となった本作では、ニカラグアの首都マナグアに存在する国家最大級のゴミ捨て場ラ・チュレカを舞台に、母の不在に直面する少女マリアの姿をリアリスティックに、その内なる世界を幻想的に交えながら描き出す。アルフォンソ・キュアロンやクリストファー・ノーランなどこれまでも数多くの偉大な監督を発掘してきたトロント国際映画祭ディスカバリー部門に選出され、2022 年秋にワールドプレミア上映されて高く評価された。

主人公マリア役には、アラ・アレハンドラ・メダルが抜擢された。当初はエキストラの一人として参加予定だったが、コロナによる撮影の延期で主人公役の少女が成長して役に合わなくなり、白羽の矢が立った。

実際にマリアと似た境遇で生まれ育ったアラが、たくましく生きるマリアを圧倒的な存在感で演じている。

ニカラグアを象徴する美しい湖と、湖畔に広がる大量のゴミ集積場――。壮大な自然と人間が生み出す人工物という対照的な光景は、環境問題への強烈なメッセージを放つ。苛酷な環境においても誇りを持って生きようとする母と子の姿は、観る者の心を震わせることだろう。

## Historia



### *La Hija de todas las Rabias*

11歳のマリア（アラ・アレハンドラ・メダル）は、ニカラグア最大のマナグア湖に隣接する広大なゴミ集積場の近くで、母親のリリベス（バージニア・セベリア）と共にゴミ収集をしながら暮らしている。

ある日、政府はゴミ収集事業の民営化を決定し、これに対してゴミ収集で生計を立てていた人々が反発。大きな抗議活動へと発展し、政府と住民との衝突が続いていた。

抗議活動の影響で廃棄物が売れなくなり、生活がさらに苦しくなったリリベスは、街の組織と取引をし、マリアがかわいがっていた子犬たちをやむなく売って生計の足しにしようとする。しかし、不意の出来事によりその取引ができなくなってしまう。トラブルを解決するため、リリベスは知人夫婦（ノエ・エルナンデス、ダイアナ・セダノ）が営むリサイクル施設にマリアを預け、ひとり街へと出かけていく。その施設では行き場の

ない子どもたちが多く暮らし、廃棄物のリサイクル作業を手伝っていた。「すぐに戻る」という母の言葉を信じて待つマリアだったが、母は何日経っても戻らない。マリアは戸惑い、混乱し、言葉にならない怒りを募らせていく。周囲に馴染もうとせず孤立するが、マリアを心配し気にかけてくれる少年タデオ（カルロス・グティエレス）に少しずつ心を許し仲良くなる。しかし、母への思いは日増しに募り、タデオの助けを得て施設から抜け出し、母を捜す旅へと出かける――。

## Perfil

監督：ローラ・バウマイスター LAURA BAUMEISTER

1983年、ニカラグア生まれ。映画監督、社会学者。メキシコの国立映画学校・CCC映画センターで映画制作を学び、これまで数本の短編を制作。短編『Isabel Im Winter』（2014年/22分/メキシコ・ドイツ/ドイツ語/日本未公開）は、2014年カンヌ国際映画祭批評家週間上映された。本作『マリア 怒りの娘』で長編デビューを果たす。



### ♡ その他ニカラグアを舞台とした映画 ♡（ニカラグアの会・原田調べ）

1. **\*アルシノとコンドル\***（1982年）監督：ミゲル・リッティン 製作：ニカラグア、キューバ、メキシコ、コスタリカ モスクワ国際映画賞金賞
  2. **アンダーファイアー**（1983年）監督：ロジャー・スポティスウッド 製作：米国 主演ニック・ノルティ、共演ジーン・ハックマン
  3. **ウォーカー**（1987年）監督：アレックス・コックス 製作：米国、メキシコ
  4. **サンディーノ**（1990年）監督：ミゲル・リッティン 製作：キューバ、イタリア、スペイン、チリ、メキシコ、ニカラグア
  5. **カルラの歌**（1996年）監督：ケン・ローチ 製作：イギリス、スペイン、ドイツ
  6. **\*バナナの逆襲\***（第一話2011年 第二話2009年）監督：フレドリック・ゲルテン 製作：スウェーデン、デンマーク、ドイツ、アメリカ、イギリス
  7. **ラ・ユマ**（2010年）製作：フランス、メキシコ、スペイン、ニカラグア 日本未公開
- \*1と6の2作品は、ニカラグアの会で上映会を開催したことあり



**2024年2月、ユーロスペースほか全国順次公開配給**

© Felipa S.A. - Mart Films S.A. de C.V. - Halal Scripted B.V. - Heimatfilm GmbH + CO KG - Promenades Films SARRL - Dag Hoel Filmproduksjon as - Cardon Pictures LLC - Nephilim Producciones S.L. - 2022

公式サイト: <https://strollfilms.com/daughter/>

配給・宣伝: ストロール株式会社 (湯川) [yasuyo@strollfilms.com](mailto:yasuyo@strollfilms.com) TEL: 090-2411-8778

## 世界はやさしい世界でできている---中南米放浪記から

私・長瀬は妻と一緒に1年3か月（22年8月～23年11月）をかけて、北米、中南米（236日間）、ヨーロッパ、中東、アジアと合計54か国旅しました。これまで訪れたことのない国々を旅して、現地の風を感じ知らない価値観に出会いたい。そして自分の視野を広げること、また妻と価値観や思い出を共有することが主な目的でした。中南米だけでも、酸いも甘いも色々なことがありました…。



### ◆盗難、ケチャップ強盗、土砂災害◆

日本よりも治安がいい国は少ない。ないといってもいいかもしれません。エクアドル第三の都市クエンカでは、パソコンの入った鞆を盗まれました。エクアドルの首都キトでは、街中で液体（僕らの場合は鳥の糞のような液体）をかけられた際に荷物を盗まれそうになるケチャップ強盗未遂に遭いました。これらの被害に遭わないように最大限注意をしていたつもりですが、一度目を付けられてしまったら避けることは難しい、というのが正直な感想です。

またコロンビアで夜行バス（予定走行時間は15時間）に乗車中、前日の大雨の影響で土砂崩れが起り、道路が完全封鎖された。重機が到着し道路が開通するまで、三晩をバス車内で過ごし、出発から71時間後に目的に到着しました（その後、夫婦揃って体調不良に…）。こちらは自然災害なので避けられませんが、今回の旅の中で体力的に最もきつい経験でした。

### ◆優しい人たちの世界◆

旅中に上記のような出来事に遭うこともあれば、素敵な出来事もありました。

上記のように目的地まで71時間かけて到着した時、同乗していたコロンビア人たちはクレームを一切出すことなく、むしろ祝福の拍手が沸き起こっていました。遅延やトラブルに慣れていない僕らとは異なり、コロンビアの人たちはその場の状況を受け入れ、誰かの過失を問うこともなく、その中でどう過ごせばいいのか知っているようでした。それは頭では理解できるけれど実践するのはかなり難しいので、最後に感心させてもら

いました。もし日本で同様の場面があれば、返金や遅延証明書、宿泊対応等を求める声が上がっていたことでしょう。

ほかにも、沢山の親切で優しい人たちにも出会いました。

**ニカラグア**（10日間滞在。当会が支援する SUPEREMOS を訪問）では、レストランで横に座っていた家族と話をしていたら、食事後、彼らが僕らを車で目的地まで送り届けてくれた。**コスタリカ**では、エコツアーと一緒に参加していたカップルがおすすめのカフェに連れ出してコーヒーをご馳走してくれた。**メキシコ**では、僕らが地下鉄構内で迷ったので通りすがりの女性に尋ねたら、ルートを教えてくれただけでなくチケットを買ってプレゼントしてくれた。あと突然ホットドックもプレゼントしてくれた。**パナマ**では、見ず知らずの僕らを年越しパーティーに誘って一緒に新年をお祝いしてくれた。

### ◆世界を旅することで変わった世界のイメージ◆

日本で暮らしていると、世界各国の事件や事故、災害は、新聞やテレビ、SNS 等を通して誰でも知ることができます。しかし、僕らと一緒に時間を過ごしてくれた素敵の方々との出会いや彼らが見せてくれた優しい世界を実際に知ることはできないでしょう。旅をする前の僕らは中南米について、「治安が良くない」「なんか怖そう」といったイメージがありました。旅を終えた今でも日本と比べれば世界には治安が良くない、怖い雰囲気があるのは事実だと思います。

しかし、同時に、僕らが出会った優しい人たちが暮らす美しい世界が広がっているのも事実だと知ることができました。優しい世界を生きる彼らと出会い、僕らも彼らのように損得勘定なくポジティブな感情を届けられる自分で在りたいなど心底思わせてくれました。中南米が「良くない」「怖い」というイメージではなく、「親切」「優しい」等のポジティブなイメージが先行するようになりました。おかげで、国際社会の一員として世界を偏見なく見ることができるようになった気がします。

僕らと同じようにまだ中南米を訪れたことがなく偏見がある方々にも、ぜひ機会を作ってリアルを自分の肌で国際社会を感じてみてほしい。きっと「やさしさ」と出会うことができるから。

酸いも甘いも予期せぬことが起きるのが旅の醍醐味ですので、細心の注意を払うこともお忘れなく。

Text by **長瀬 智寛**（旅人兼オルタナティブ・スクール「あいち惟の森講師」）

## 2024年版カレンダー、まだまだ販売中！

値段下げました、1部 **900円**です。(送料等は前号や Facebook で確認を)



### ◎編集追記◎

①映画「マリア 怒りの娘」は、名古屋公開は4月の予定だそうです。会では強力にプッシュしていこうと考えています。

②中南米放浪記を寄稿してくれた長瀬さんは、海外に興味を持ったきっかけはフィリピン。ホームステイ家族がとても幸せそうに暮らしている姿に感動、今回の世界一周に挑戦したのも、他国の異なる幸せな暮らしも見てみたくなったからだそう。ニカラグアでは、グラナダを散歩していた時に少年野球が行われているのを見て、通っていた自身の少年野球クラブと同じ景色に懐かしさを覚え、足を止めたそうです。数年後にニカラグアからデニス・マルティネスのような選手が出てくるのかな？

③プロ野球巨人の女子チームがニカラグアに派遣され、現地の選手や子供たちと交流している様子が連日報道されています。ニカラグアで女子野球を盛んにしようと頑張るおなじみの阿部翔太さんが引率されています。また追って報告があることと期待します。